

緑茶の輸出

2025
抹茶バブルが
止まらない!

2024年 全国・近畿圏ともに
輸出数量および金額 過去最高!



1. はじめに

今年も残すところあと2週間となりました。

年末の慌たじさを忘れ、温かいお茶でほっと一息したいですね。

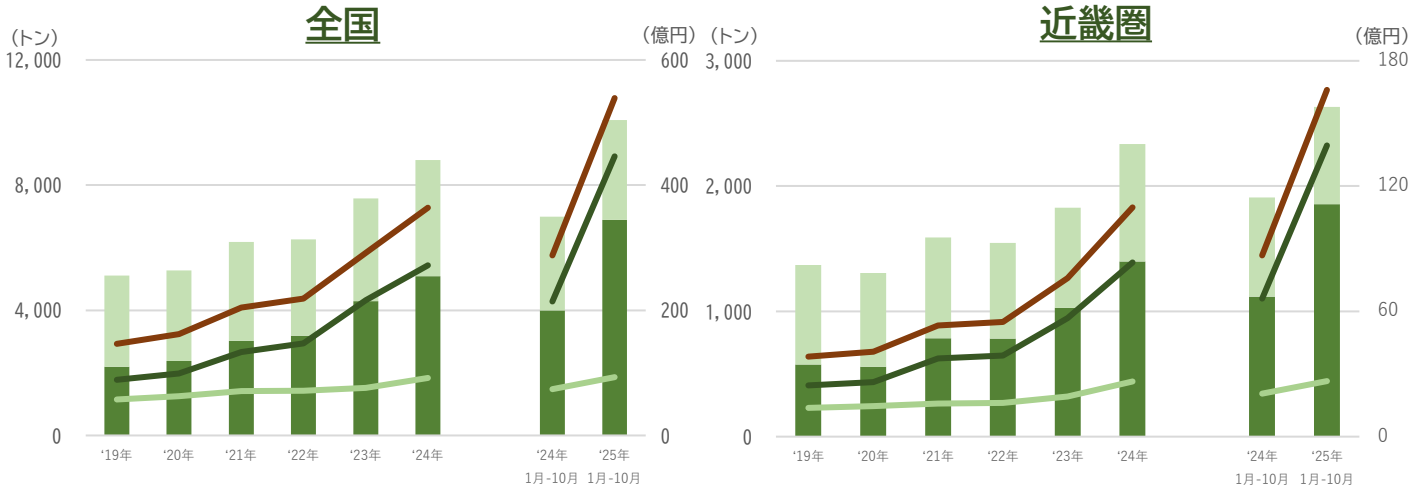
新茶の季節は5月ですが、茶の湯で抹茶が最も美味しいとされる季節は11月～12月だそうです。これには春に摘まれた新茶を茶壺に封じて熟成させ旨味を引き出すという日本の知恵が詰まっています。11月頃に茶壺の封を開け、その年最初の一杯を味わう行事を“口切の茶事”といいます。

11月～12月は、できたての抹茶をいただくことができる1年で最も抹茶の美味しい季節。

そこで今回は、抹茶を含む緑茶の輸出について特集しました。

2. 年別輸出推移

2024年の緑茶全体の輸出は、全国で数量8,798トン、金額は364億円、近畿圏では数量が2,337トン、金額は110億円であり、数量・金額において、全国・近畿圏ともに過去最高となりました。



■ 粉末状の緑茶 輸出数量 ■ その他の緑茶 輸出数量
— 緑茶全体 輸出額 — 粉末状の緑茶 輸出額 — その他の緑茶 輸出額

2019年1月の輸出統計品目表の改正により、緑茶の中で「粉末状の緑茶」の品目番号が追加され、より詳しく分析できるようになりました。この粉末状の緑茶には、現在海外でブームとなっている抹茶も含まれています。

品目が追加された2019年以降、粉末状の緑茶の輸出は数量・金額ともに増加し、全国・近畿圏ともに2024年は数量・金額において過去最高を記録しました。さらに2025年に入ってから増加し、全国・近畿圏ともに2025年1月から10月までの緑茶全体の金額に占める粉末状の緑茶の割合は8割を超え、前年同期の約2倍となっています。

○本特集における「緑茶」は、輸出統計品目番号0902.10 および 0902.20 の合計値です。

0902.10 緑茶（発酵していないもので、正味数量が3KG以下の直接包装にしたもの）

0902.10-100 **粉末状のもの**

0902.10-900 その他のもの

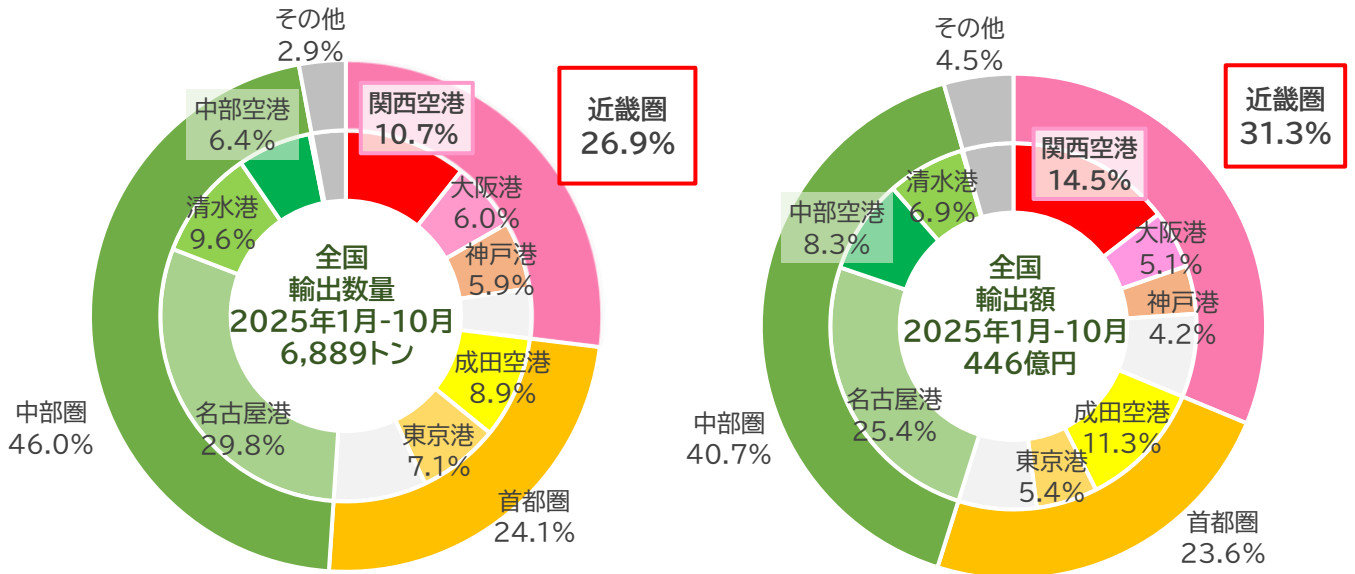
0902.20 緑茶（発酵していないもの）

0902.20-100 **粉末状のもの**

0902.20-900 その他のもの

「粉末状の緑茶」は 0902.10-100 および 0902.20-100 の合計値
 「その他の緑茶」は 0902.10-900 および 0902.20-900 の合計値

3. 粉末状の緑茶 主要経済圏別(港別)内訳



粉末状の緑茶の輸出について2025年1月から10月の経済圏別構成比をみると、数量・金額ともに近畿圏は中部圏に次いで第2位となっています。

近畿圏の輸出数量は1,856トンで全国シェアは26.9%、金額は139億円で全国シェアは31.3%です。

また、粉末状の緑茶について2025年1月から10月の輸出港をみると、関西空港が数量737トンで全国シェア10.7%、金額は65億円で全国シェア14.5%であり、数量・金額ともに全国で第2位となっています。

業界によると、近畿圏の港が利用される理由としては、近畿圏に会社や工場があり、輸送コストの削減やリードタイムの短縮といった利点があるからだそうです。

また、近畿圏から輸出される緑茶は、関西の主要産地(京都・三重・滋賀・奈良)に加え、静岡産や鹿児島・福岡などの九州産のものも多いそうです。

粉末状の緑茶 輸出港 順位 (2025年1月-10月)

順位	港	数量(トン)
1	名古屋	2,054
2	関西空港	737
3	清水	658
4	成田空港	614
5	東京	489

順位	港	金額(百万円)
1	名古屋	11,307
2	関西空港	6,483
3	成田空港	5,033
4	中部空港	3,723
5	清水	3,065

粉末状の緑茶について

今回特集で取り上げた「粉末状の緑茶」には、抹茶と粉末茶が含まれています。これらの粉末状の緑茶は飲用はもちろんのこと、デザートなど様々な用途で利用されています。



抹茶

てんちゃ

碾茶(覆下栽培した茶葉を碾茶炉等で揉まずに乾燥したものを)を茶臼等で微粉末状に製造したものを。

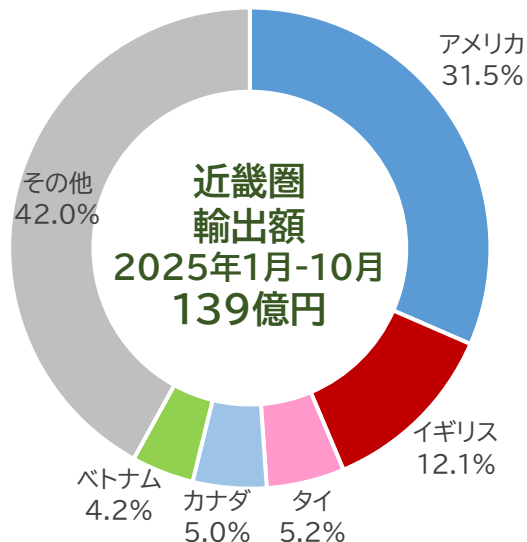
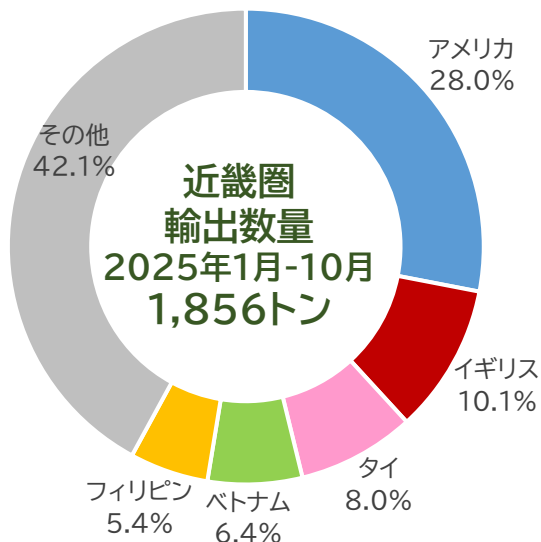


粉末茶

茶を粉砕機等により粉末にしたもの。

粉末にしたお茶のことを粉末茶と言いますが、碾茶を粉末にしたものは抹茶となりますので、碾茶以外のお茶を粉末したものを、粉末茶といいます。

4. 近畿圏 粉末状の緑茶 仕向国別内訳



2025年1月から10月における近畿圏の輸出数量は1,856トン、金額は139億円でした。数量・金額ともにアメリカ向けが第1位で全体の約3割を占めており、数量は520トン、金額は44億円です。

業界によると、近畿圏から輸出される粉末状の緑茶はいずれの国へも抹茶が多く、特に抹茶ラテ用が多いとのことです。海外でもSNSで抹茶の投稿が話題となり、特に若い世代に爆発的な人気となりました。抹茶ラテはアーモンドミルクなど様々な植物系ミルクで合わせて飲まれたり、抹茶ラテにシロップやフルーツソース等を加えて3色以上のカラフルな見た目を楽しむ方も多いそうです。

こうした認知度の高まりで、抹茶の人気は徐々にアジア圏から欧米へと浸透しているようです。

アメリカやイギリスでは抹茶専門店の増加や、日本文化への関心が高まっているといった声も聞かれました。健康志向の高まりから、カフェインを控えるといった目的で、コーヒーから抹茶へ切り替える動きもあるそうです。

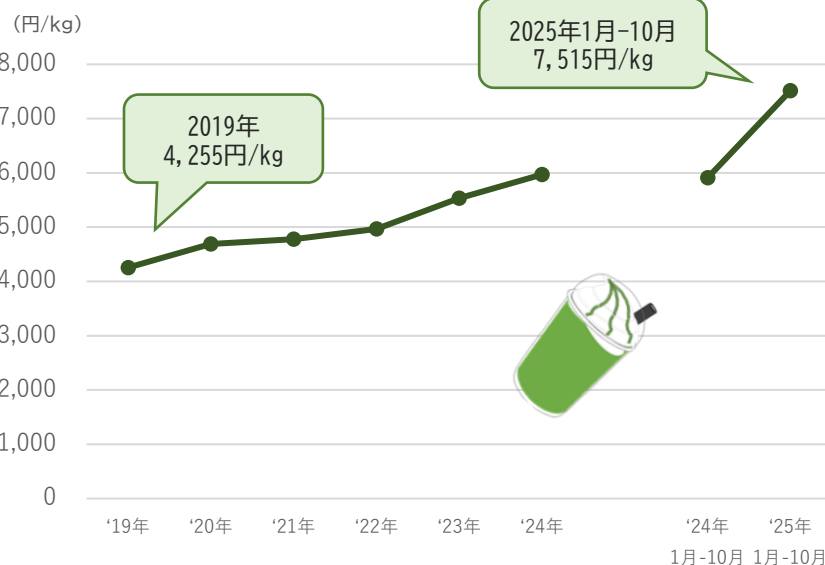
また、茶道やラテ等の飲用以外にも、パンやケーキ、アイスクリームなどにも利用できる抹茶の汎用性の高さも、人気が高まった要因のようです。

5. 近畿圏 粉末状の緑茶 輸出単価推移

近畿圏における粉末状の緑茶の輸出単価(円/kg)は、2019年は1kgあたり4,255円でしたが、2025年の1月から10月は7,515円と2019年と比べて約1.8倍となっています。

輸出単価の推移を見てみると、特に2024年から、2025年にかけて、大きく単価が上がっているのがわかります。

業界によると、2024年の夏季の高温や少雨により新芽の生育が十分でなかったこと、抹茶ブームにより国内外で需要が急増し、在庫が不足していることなどにより、抹茶の価格が高騰しているということです。



抹茶の原料となる碾茶は、摘み取られた後「蒸し」や「乾燥」「熟成」など、複雑な工程を経て質の良い抹茶となります。碾茶のための新しい茶畑を作ろうとしても、茶の幼木を植えてから収穫できる成木に育つまでには5年以上かかるそうです。このように、抹茶を生産するためにはじっくり時間をかけて丁寧に行う必要があります。生産量を短期間で増やすという事は難しいとのことです。

こうした状況下で、新規の取引の一時的な中断や注文数の制限、商品のラインナップの見直しなど、様々な取り組みを行っているそうです。

また、抹茶不足に関する詳しい説明など、海外に向けた情報提供も行っているとのことです。

まとめ

近畿圏からは、関西の主要なお茶である宇治茶(京都府・奈良県・滋賀県・三重県)をはじめとした様々な緑茶や抹茶が輸出されています。

業界によると、日本の緑茶は、その品質と安全性の面で信頼性が高く、長年の栽培技術を活かして多様な要望に対応できることから、海外で高く評価されています。

特に近畿圏から多く輸出されている京都府のお茶に関しては、長い歴史の中で磨かれた高度な技術と優れた品質で、今や地名の「宇治」とともに世界中でブランドとして浸透しつつあります。茶商や職人、農家、お茶屋さん、それぞれが次の世代に宇治茶を継承させるため、長年技術を磨き続けているからこそ、京都府のお茶の品質の理由といったお話も聞かれました。

ブームとともに、輸出が増加していることはもちろん、インバウンド需要で国内での販売も伸びている抹茶。

お土産や観光でたった1回買うお茶ではなく、日常のお茶となってもらえるよう、今後も海外への発信などの仕組みを整えていきたいとのことでした。

師走に入ると仕事納めや年末準備など何かとせわしない日々が続きますね。

温かいお茶でほっこり、ひとやすみしてみたいはいかがでしょうか。



抹茶のふるさと 京都

今や国内外で人気の抹茶。京都府宇治市で独自に進化・発展を続けてきたことをご存じでしょうか？

約800年前、宋西というお坊さんが中国から日本に伝えたお茶文化は、時代を経て室町時代に抹茶が生まれました。

京都・宇治で発明された覆下栽培という日本独自の手法で栽培された茶葉を、石臼でひき、抹茶が誕生しました。宇治で作られた抹茶は、足利将軍から徳川時代まで将軍の御用茶として保護され、宇治茶の素晴らしさが日本に広まりました。

京都府では現在も伝統的な「覆下栽培」や、お茶摘みさんが丁寧に茶葉を摘み取る「手摘み」が行われており、高級茶と呼ぶにふさわしい品質を保っています。

2025年8月に行われた全国茶品評会では、抹茶の原料となる碾茶の産地賞を京都府宇治市が受賞し、鮮やかな緑色で美しい茶葉や碾茶特有の香り、豊かな旨味が評価されました。



写真提供・取材協力：京都府茶業会議所

全国・近畿圏 輸出数量・金額 推移

年	全国(緑茶全体)				近畿圏(緑茶全体)						
	数量(トン)		金額(百万円)		数量(トン)			金額(百万円)			
		前年比		前年比	前年比	全国比		前年比	全国比		
2019年	5,108	100.1%	14,642	95.5%	1,371	102.0%	26.8%	3,833	102.0%	26.2%	
2020年	5,274	103.3%	16,188	110.6%	1,306	95.2%	24.8%	4,075	95.2%	25.2%	
2021年	6,179	117.1%	20,418	126.1%	1,590	121.7%	25.7%	5,326	121.7%	26.1%	
2022年	6,266	101.4%	21,891	107.2%	1,546	97.3%	24.7%	5,493	97.3%	25.1%	
2023年	7,579	121.0%	29,186	133.3%	1,828	118.3%	24.1%	7,599	118.3%	26.0%	
2024年	8,798	116.1%	36,380	124.6%	2,337	127.8%	26.6%	10,988	127.8%	30.2%	
'24.1-10	6,996	117.1%	28,767	125.4%	1,908	125.6%	27.3%	8,678	142.0%	30.2%	
'25.1-10	10,084	144.1%	53,912	187.4%	2,633	138.0%	26.1%	16,608	191.4%	30.8%	

全国(粉末状の緑茶)						
年	数量(トン)			金額(百万円)		
		前年比	粉末状の緑茶割合		前年比	粉末状の緑茶割合
2019年	2,200	-	43.1%	8,893	-	60.7%
2020年	2,375	108.0%	45.0%	9,903	111.4%	61.2%
2021年	3,024	127.3%	48.9%	13,338	134.7%	65.3%
2022年	3,183	105.3%	50.8%	14,732	110.5%	67.3%
2023年	4,290	134.8%	56.6%	21,606	146.7%	74.0%
2024年	5,092	118.7%	57.9%	27,197	125.9%	74.8%
'24.1-10	3,998	117.3%	57.1%	21,393	126.6%	74.4%
'25.1-10	6,889	172.3%	68.3%	44,599	208.5%	82.7%



近畿圏(粉末状の緑茶)									
年	数量(トン)				金額(百万円)				
		前年比	全国比	粉末状の緑茶割合		前年比	全国比	粉末状の緑茶割合	単価(円/kg)
2019年	577	-	26.2%	42.1%	2,455	-	27.6%	64.0%	4,255
2020年	558	96.8%	23.5%	42.7%	2,619	106.7%	26.4%	64.3%	4,694
2021年	784	140.4%	25.9%	49.3%	3,746	143.0%	28.1%	70.3%	4,778
2022年	782	99.7%	24.6%	50.6%	3,883	103.6%	26.4%	70.7%	4,965
2023年	1,027	131.3%	23.9%	56.2%	5,679	146.3%	26.3%	74.7%	5,530
2024年	1,399	136.2%	27.5%	59.9%	8,348	147.0%	30.7%	76.0%	5,967
'24.1-10	1,118	135.2%	28.0%	58.6%	6,611	147.8%	30.9%	76.2%	5,913
'25.1-10	1,856	166.0%	26.9%	70.5%	13,947	211.0%	31.3%	84.0%	7,515



粉末状の緑茶 港別輸出数量・金額(2025年1月～10月)

	数量(トン)			金額(百万円)		
		前年比	全国比		前年比	全国比
関西空港	737	151.7%	12.2%	6,483	259.5%	17.4%
大阪港	415	151.7%	6.9%	2,290	159.5%	6.1%
神戸港	406	112.5%	6.7%	1,889	121.0%	5.1%
東京港	489	135.2%	8.1%	2,409	152.7%	6.5%
成田空港	614	295.7%	10.2%	5,033	357.9%	13.5%
名古屋港	2,054	182.9%	34.1%	11,307	191.0%	30.3%
中部空港	443	556.2%	7.4%	3,723	630.7%	10.0%
清水港	658	124.1%	10.9%	3,065	145.0%	8.2%



近畿圏 粉末状の緑茶 国別輸出数量・金額 推移

	アメリカ		イギリス		タイ	
	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)
2019年	103	613	11	66	50	128
2020年	164	959	22	105	46	132
2021年	296	1,522	26	138	40	137
2022年	222	1,342	14	85	69	211
2023年	380	2,196	23	160	63	257
2024年	412	2,832	92	469	102	458
'24.1-10	330	2,246	71	361	81	347
'25.1-10	520	4,397	188	1,690	148	730

	ベトナム		フィリピン		カナダ	
	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)
2019年	18	43	4	17	19	78
2020年	16	37	2	5	20	150
2021年	21	60	3	10	27	154
2022年	16	60	33	208	40	221
2023年	22	92	94	475	40	248
2024年	98	456	100	453	54	396
'24.1-10	76	353	86	401	44	310
'25.1-10	119	585	99	550	81	691

○2025年は確報値、2024年以前は確定値となります。

○本特集における経済圏は以下の都府県を含むものです。

近畿圏: 大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県

首都圏: 東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県

中部圏: 愛知、岐阜、三重、長野、静岡の5県

○港別の貿易額は、その港を管轄する税関官署の貿易額を集計したのになります。

成田空港は、東京航空貨物出張所および成田航空貨物出張所の合計値となります。

○金額はFOB価格で集計しています。

○表示単位未満は四捨五入しています。

○本資料における過去最高は緑茶全体においては1988年以降、粉末状の緑茶については2019年以降の比較になります。

○本資料を他に転載する際は大阪税関の資料に基づく旨を注記してください。

○本資料に関するお問い合わせは大阪税関調査部調査統計課までお願いします。(電話06-6966-5385)